



ふるさとの**自然**

19

キジバト

市内でもよく見掛けるキジバト。「山バト」とも呼ばれます。「グーグ、ポッポポー」というのどかな鳴き声が聞こえてくると、心が癒やされる感じがします。

●町中にも進出

キジバトは市内に広く住み、一年中見られる鳥です。もともとは森や林に住む鳥でしたが、今では町中でもよく見掛けるようになりました。体がキジの雌のような色をしているので、キジバトという名前が付けました。

●ミルクで子育て

キジバトは雑食で、草の種や木の実、小さな動物などを食べます。枝の茂みに細い枯れ枝などを集めて皿のような形の巣を作り、真っ白な卵を2個産みます。巣作りはとても雑で、下からのぞくと卵が透けて見えるほどです。ひながかえると、最初の数日間は「ハトミルク」という動物のミルクに似た栄養価の高いものを与えます。ハトミルクは、鳥類が持つ「そのう」という器官で作られます。

●人に馴れやすい鳥

キジバトは繁殖期間が長く、ほとんど一年中子育てをしています。庭にもよくやって来て庭木にも巣を作ります。夫婦仲が良く、2羽でいることが多いようです。人が餌をあげるとだんだんに馴れてきて、すぐ近くまでやって来るようになります。

●方位磁石を持つ鳥

ハトは自分の家に帰る習性が強いので、メモを運ぶ伝書バトとして利用されました。ハトの頭には磁石のようなものが入っていて、帰る方向が分かるのだそうです。

神社などの大きな建物に住んでいるのはドバトです。ドバトは野生のハトではなく、人が飼っていたものが野生化したものです。平和のシンボルといわれるハトですが、今はふん害が問題になることもあります。(齊藤敏一)

編集こぼれ話

猛烈な暑さからようやく解放され、秋風が心地良い季節となりました。スポーツで汗を流したり、ゆっくり読書をしたり、秋の楽しみ方は、皆、さまざまです。私のお気に入り、夜の縁側で軽く(?)お酒を飲むこと。自然の風を感じながらのビールは最高です。窓から夜空を眺め、いろいろな虫の声も聞こえてきて、しばし現実逃避——。こんなひとときが過ぎせるのも、この季節ならではです。

自分だけの小さな楽しみ、見つけてみませんか。(ま)

イキイキ

あさひっ子



さや 沙彩ちゃん(左)
平成21年11月14日生
もえ 萌衣ちゃん(右)
平成19年 7月26日生
両親=糸賀貴志さん
敬子さん[岩井]

「歌って踊って大はしゃぎな仲よし姉妹です!」

ゆうま 悠真ちゃん

平成22年12月6日生
両親=北谷博士さん
純子さん[口]

「お祭り楽しいな! 早く太鼓たたいてみたいな!」



みゆう 心優ちゃん(左)
平成20年11月18日生
まりあ 真愛ちゃん(中)
平成17年10月18日生
ここあ 心愛ちゃん(右)
平成20年11月18日生
両親=加瀬俊雄さん
めぐみさん[井戸野]



「お姉ちゃん大好き♡仲よし三姉妹」

“イキイキあさひっ子”を大募集

掲載を希望する人は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595 旭市二の1920・☎62-8070)へ。

対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、旭市保健センター、飯岡保健センター、秘書広報課、各支所にあります。

くらしのカレンダー

1日(土) 琴田小・三川小運動会

2日(日) 秋のゴミゼロ運動

第89回熊野神社式年御神幸祭

10日(月) 体育の日

30日(日) いきいき旭・産業まつり2011
(午前10時～ 旭スポーツの森公園)